

□ 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(四十点)

受験番号

この部分は
著作権の関係で
掲載できません。

受験番号

問一 〰線部 a) e のカタカナを漢字に直せ。

	a		
	b		
		c	
			d
			e

問二 (A) (B) (C) を補うのに最も適当な語を次の中からそれぞれ選び、記号で答えよ。

ア・しかし	イ・やはり	ウ・むしろ	エ・だから	オ・または	カ・かつ
A	B	C			

問三 〰を補うのに最も適当なものを次の中から選び、記号で答えよ。

ア・使いやすさや質の良さ	イ・デザインやおしゃれ感	ウ・再生性や環境性能の良さ	エ・肌ざわりや温かさ
			〰

問四 〰線部 「今は、もはやそれらは大前提にされていなければ話は進まない」とはどういうことか。その説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えよ。

ア・森林の再生や環境に配慮のない商品は、売れるかどうかを議論するまでもなく市場に受け入れられないこと。	イ・木製品そのものの魅力も大切だが、消費者は森林の再生や環境に配慮しているものを選ぶ傾向にあること。	ウ・森林の持続性に配慮している商品かどうかは重要であるが、売れる要素があるかどうかの方が優先されること。	エ・売れるだけの素晴らしさと環境への配慮を兼ね備えていなければ、新たな木製品を開発する意味がないこと。
			〰

問五 〰線部 「環境性能の良さ」を具体的に述べた部分を文中から二十五字以内で探し、初めと終わりの五字を答えよ。

〰	〰
---	---

問六 〰線部 「大場さんたちの次のステージの狙いはそこだ」とはどういうことか。その説明として、最も適当なものを次の中から選び、記号で答えよ。

ア・人間が森に活かされるためには何が必要かを伝えることによって、人々の自然に対する意識や関わり方を変えていくこと。	イ・森林に関わる様々な産業がつながり互いを意識することで、森の資源の素晴らしさを人々が味わえるよう提案していくこと。	ウ・消費者と木製品の生産者との間を取り持つ存在になって、人々の森の再生に貢献しようとする姿勢を育てていくこと。	エ・木製品の総合的な魅力を伝えるご意見番という立場から、森林を保護していくことの重要性を人々に訴えていくこと。
			〰

問七 〰線部 「そこには、どこか人の驕りがなかったらどうか」とあるが、どういふ点を「驕り」といふのか。二十五字以内で説明せよ。

〰

問八 〰線部 「少なくとも日本では全般を通して停滞し、沈んでいる」とはどういうことか。その説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えよ。

ア・森の再生をビジネスとして成立させることはできても、限りある資源を十分に利用することは難しいということ。	イ・森の資源を循環させるための方針は形になりつつあるが、関わる全員に利益が出るような状況ではないということ。	ウ・環境に役立つビジネスを提案することは可能でも、人間の身勝手な発想を改めさせることはできないということ。	エ・環境に配慮しながら森の資源を活用することは不可能ではないが、経済的な問題により実現できていないということ。
			〰

問九 〰線部 「そう願いながら使わせていただく」とあるが、ここに表れているのはどういふ姿勢か。本文全体の趣旨を踏まえたうえで、文中の語句を用いて十字以内で答えよ。

〰

問十 〰線部 「多様な宝が私たちのところに届く」とはどういうことか。文中の語句を用いて二十字以内で答えよ。

〰

問十一 文中には次の一段落が抜けている。これを補う場合、〰の段落の後が最も適当か。①～④の中から選び、数字で答えよ。

【人をやる気にさせる。お互いのいいものを引き出しあう関係をつくって仕事をしよう。正面からそういう姿勢でこられたら、きっと多かれ少なかれ周囲の人たちは意識の向け方が違ってくる。】

段落の後

受験番号

□ 次の文章は、
の問いに答えなさい。(四十点)

これを読んで後

この部分は、
著作権の関係で
掲載できません。

受験番号

問一 線部 a、d の読み方をひらがなで答えよ。

a	b	c	d
---	---	---	---

問二 (A) (B) を補うのに最も適当な語をそれぞれ次の中から選び、記号で答えよ。

ア・無理に	イ・無邪気に	ウ・無意識に	エ・無駄に	オ・無性に	A	B
-------	--------	--------	-------	-------	---	---

問三 線部 「後ろ指を指される」「足繁く」の意味として最も適当なものをそれぞれ次の中から選び、記号で答えよ。

- 【ア・悪い噂を広められる イ・陰で悪口を言われる ウ・嫌がらせを受ける エ・仲間外れにされる】
 【ア・大勢で押し掛けるさま イ・無理を押しつけて訪ねるさま ウ・様々な方法で通うさま エ・しきりに出向くさま】

--	--

問四 線部 「お前がちゃんと抱えてあげなきゃならないのは家族と仕事」とあるが、このように母が言う理由を文中の語句を用いて、四十字以内で答えよ。

--	--

問五 線部 「ああ、この子は本当に可愛いね」とあるが、なぜ母はこのような発言をしたのか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えよ。

- ア・万由子が可愛いあまり、私と話をすることなどもうどうでもよくなってしまったため。
 イ・万由子のことを口に出すことによって、自分の施設行きに関する話を終わらせるため。
 ウ・万由子がそばにいるにもかかわらず、私が施設の話が続けようとするのを止めるため。
 エ・万由子の可愛らしさを伝えることで、私にとって大切なものが何かを確認させるため。

--

問六 線部 「そろそろ、出発しようか」私はエンジンを掛けた」とあるが、これとは逆に、私が母の施設行きをためらっていることがうかがえる様子を、これより後の文中から二十字以内で抜き出せ。

--

問七 線部 「国道はまるで、姥捨て山に続く細道のように感じられて仕方なかった」とあるが、この時の私の気持ちを表す一語を考えて答えよ。

--

問八 線部 「思わず私は頭を振った」とあるが、ここでの私の様子を説明したものととして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えよ。

- ア・母を施設へ預けることをやめて東京で一緒に暮らすかと揺らぐ気持ち振り切ろうとしている。
 イ・母を施設に預けることがかわいそうに感じられ、施設に預けるのをやめようと決意を固めている。
 ウ・母を見たことで施設へ預けることが気の毒だと感じ、やめようかと迷う自分に嫌気がさしている。
 エ・母を施設へ預けに行っているのに、東京へ行くなどできもしないことを考えた自分を責めている。

--

問九 線部 「この機会」とあるが、どういう機会か。十字以内で答えよ。

--

問十 本文の内容に合うものを次の中から二つ選び、記号で答えよ。

- ア・私は、これから施設へ預けてもう会えなくなってしまう母に最後の親孝行をするために、車椅子を使わず母を背負うことにした。
 イ・私は、母を施設に預けることはやむを得ないと思いながらも、今日だけは自らの手でしっかりと大切な母を受け止めようとした。
 ウ・施設に預けるかどうか迷いながら必死に涙をこらえ自分を背負う息子をかわいそうに感じた母は、無理をして気丈に振舞った。
 エ・私は、母が自分にくれたことを思い出しその愛情の深さを感じたため、いつか必ず母を引き取り一緒に暮らしたいと考えた。
 オ・今、背負っている母が自分にとってどれほど大切な存在であるかを懸命に伝えようとする息子の思いを母は十分に感じ取った。

--

受験番号

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(二十点)

この部分は、著作権の関係で掲載できません。

問一 線部 「上りける」とあるが、どこへか。次の中から最も適当なものを一つ選び、記号で答えよ。

ア 土佐

イ 安芸

ウ 京都

エ 江戸

問二 線部 「思ひ」「いひけれ」の主語をそれぞれ次の中から選び、記号で答えよ。

ア 和邇部用光

イ 宗と

ウ 海賊たち

問三 線部 「吹きて聞かせ申さむ」とあるが、この時の用光の気持ちを説明したものととして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えよ。

- ア 今まで大事に吹いてきた筆策の小調子をこの場の思い出として最期に聞かせてやりたいという気持ち。
イ 筆策の小調子をこの大海原で心を込めて吹いて最期に都にいる一族の所まで届けたいという気持ち。
ウ 自分が心を込めて筆策の小調子を吹けば海賊たちが深く感じ入って命を救ってくれるだろうという気持ち。
エ ここまで心に深く大事にしてきた筆策の小調子を最期に心残りなくもう一度吹かせてほしいという気持ち。

問四 線部 「さることこそありしか」とは「こういうことがあった」という意味である。どういことがあったのか、その内容を説明したものととして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えよ。

- ア 用光という筆策の名手が、自ら願ひ出て筆策の小調子を吹いて死んでいったこと。
イ 用光という筆策の名手が、海賊に捕らえられ大事な筆策を抱えて討ち死にしたこと。
ウ 用光という筆策の名手が、海賊に筆策の小調子を一緒に吹いてくれと願ひ出したこと。
エ 用光という筆策の名手が、筆策の小調子を吹いた後、海の藻くずと消えていったこと。

問五 線部 「今はかぎり」とほぼ同じ意味を表している部分を、文中から十五字以内で抜き出せ。

問六 線部 「涙を流して」とあるが、この時の用光の心情の説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えよ。

- ア 長年の間、大事に思つて吹いてきた小調子だったが吹くのもこれが最後だという心情。
イ 心に大事に思つてきた小調子を吹きたいという願ひが受け入れられ嬉しいという心情。
ウ 海賊に捕らえられたからには二度と都で小調子を吹けなくなるので悔しいという心情。
エ 荒くれ者の海賊でさえ自分の吹く小調子に感動を覚えてくれるのだという心情。

問七 線部 「異ならず」とあるが、用光の吹く筆策が、どのような点で「異ならず」というのか。文中から五字で抜き出せ。

問八 線部 「海賊おし寄せたりけり」とあるにもかかわらず、「漕ぎ去りぬ」という結末になったのはなぜか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えよ。

- ア 死を覚悟して思い切つた申し出をした用光がとても気の毒に思えたから。
イ 用光の舟に筆策以外には奪う値打ちのある物が何もないと分かつたから。
ウ 波間を渡つていく用光の筆策のすばらしい音色に深く感銘を受けたから。
エ 筆策にかけた用光の人生と比べ海賊という野蛮な行為を愚かに思つたから。

問九 この文章が教えていることは何か。次の中から最も適当なものを選び、記号で答えよ。

- ア 案ずるより産むが易し
イ 鬼の目にも涙
ウ 才芸は身を助ける
エ 背に腹はかえられない
オ 雨降つて地固まる
